

037

廃校を利活用した防災体験型宿泊施設
「KIBOTCHA」

取組主体

貴凜庁株式会社

従業員数

15 人

想定災害

地震・津波

実施地域

宮城県

- 東日本大震災で被災した小学校の校舎を活用し、子どもたちが自然に遊びながら防災の知識を学ぶことができる空間を実現。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

これからの時代を支える子どもたちに命の大切さを伝える

- 貴凜庁株式会社は、平成 30 年 7 月より、防災・減災をテーマとした体験型の教育施設「KIBOTCHA（キボッチャ）」の運営を開始した。
- 本施設は、東日本大震災の津波で被災し、廃校になった宮城県東松島市の旧野蒜（のびる）小学校の校舎を改修して作られた。「KIBOTCHA（キボッチャ）」は、「希望」「防災」「未来（フューチャー）」を組み合わせた言葉で、「これからの時代を支える子どもたちの未来に命の大切さを伝えたい」という気持ちから名付けられた。
- 本施設は、1 階にレストランと入浴施設、2 階に防災体験ゾーンや学習ルーム、3 階に宿泊施設が配置されており、非常時には 300 人規模の一時避難所としても機能する。
- 防災体験ゾーンの遊具はすべて「防災」をテーマにしており、体を動かしながら火災や津波、遭難等に対応する能力を身に付けることができるほか、自衛隊、警察、消防の OB のスタッフの指導のもと、身近なものをを使った担架の作り方やロープを使った救護術等も学ぶことができる。
- 本施設には、子どもや家族連れを対象とした防災教育キャンプや、日帰りで参加できる防災教育プログラムに加え、企業向けの研修事業や社員旅行のプログラムもあり、地元だけでなく県外からの利用者も多い。防災教育キャンプでは、「東日本大震災を知る」「防災マップの作成」「高台への避難」「ひと手間加えて非常食をおいしく食べる」等の多彩なプログラムを通じて、防災に関する知識を身に付けることができる。



校舎の姿を残した外観



楽しみながら防災知識を学ぶことができる

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 本施設は、「東松島宝探し」や「KIBOTCHA 鳴瀬かき祭り」といった各種イベントを企画することで、東松島市の魅力を対外的に発信する施設としての役割も果たしている。

3 現状の課題・今後の展開等

- 本施設を企業の研修施設として活用してもらうことで、企業が危機管理能力を向上し、レジリエンス性の高い組織作りを考えるためのきっかけとしてほしいと考えている。

担当者の声

- 防災は、東日本だけではなく、全国各地で重要な課題であると考えます。防災がより身近なものとなるようなコンテンツ作りのお手伝いをさせていただきたいと思っています。

問合せ先

貴凜庁株式会社 TEL : 0225-25-7319 FAX : 0225-25-7309 E-Mail : info@kibotcha.com